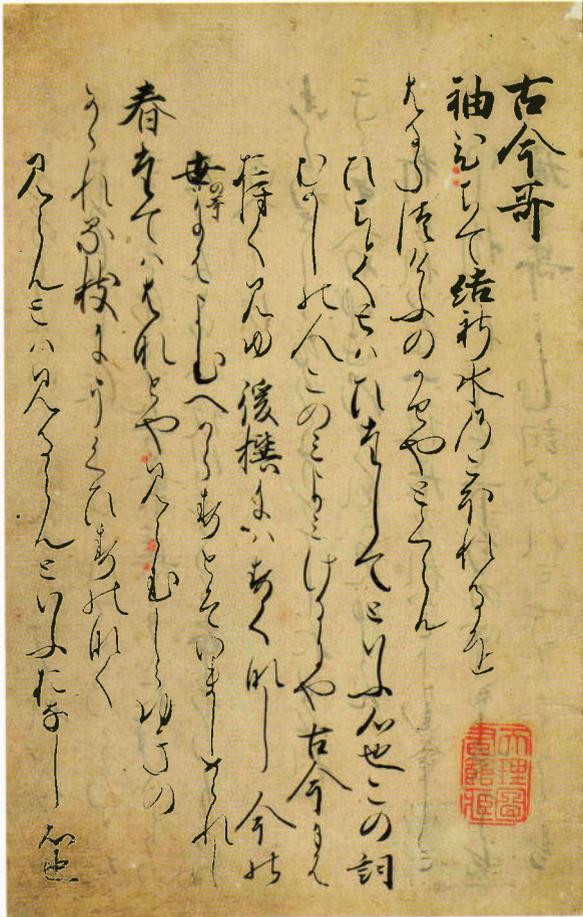


やまとの名品

天理図書館



へき あん しゅう
僻案抄(重要文化財)

藤原定家著

鎌倉時代中期写 1冊

縦24cm 横15.5cm

藤原定家(一一六二～一二四

一)は平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて、激動の時代を和歌とともに生きた歌人である。

定家の生まれた御子左家(藤原氏の家系の一つ)は、代々歌人を輩出し、父藤原俊成(一一一

一四～一二〇四)は当時の宮廷和歌の指導者であった。定家自

身も作歌を積極的に行うとともに、勅撰和歌集の編纂や歌論書

・歌学書の著述を行った。また『源氏物語』の書写校合など、

古典学者としても活動し、偉大な功績を残した。

『僻案抄』は『古今和歌集』をはじめとする『後撰和歌集』『拾遺和歌集』の、いわゆる「三代

集」について、父か

らの教えを中心に、

歌句の注釈、本文の検討、人物や歴史的事実についての考証などをまとめたものである。

巻末にある定家の

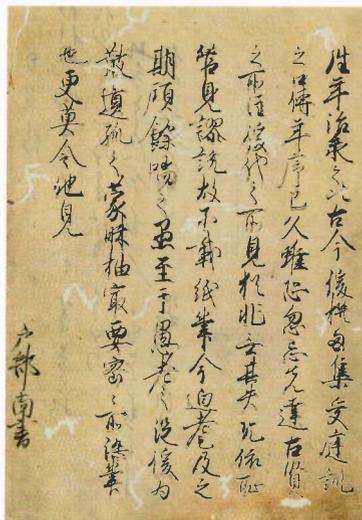
一文によると、定家

が十代後半の頃、父より『古今集』『後撰集』の教えを受けたが、

時が過ぎそれを忘れることを恐

れている。老いが迫った今、残される子孫のために特に重要な

ことを密かに書いておくので、他に見せぬように、とある。和歌宗匠家としての自覚の下に子孫に伝えようとしたのであ



る。成立は定家六十代半ば頃であったとされる。

定家の息子藤原為家(一一九

八～一二七五)の筆と伝えられる本書は、鎌倉時代中期から末期にかけての写。『僻案抄』の古

写本中、最古のものの一つとなる貴重な資料である。

(天理図書館 西口尚子)

天理図書館のお知らせ Tel: 0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>

◆平日(午前9時～午後5時半) 土・日・祝(午前9時～午後4時半)

○12月の休館日:23日・24日 年末年始:12月27日～1月6日

(本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください)